

令和2年度

第2回宝達志水町男女共同参画審議会

<日 時> 令和3年1月26日(火) 午後1時30分から

<場 所> 生涯学習センター「さくらドーム21」

2階 第1会議室

■出席者

<委 員> 北山会長、田村副会長、勝二委員、井上委員、中村委員、荒井委員
中山委員、針田委員、北委員

<事 務 局> 坂井課長、上野課長補佐、丸山主事

1 開会

2 委員紹介

3 会長あいさつ

4 議事案件

(1) 男女共同参画に関する町民意識調査の結果報告について
事務局が資料に基づき説明を行った。

(2) 第4次宝達志水町男女共同参画行動計画(素案)について
事務局が資料に基づき説明を行い、各委員の意見を伺った。

5 第3回宝達志水町男女共同参画審議会について
事務局が日程を説明した。

6 その他

7 閉会

午後2時50分 終了

(委員の意見等)

意見	<p>委員（男女共同参画行動計画 具体的施策の担当課の表記と図の再掲について）</p> <p>○行動計画の具体的施策の担当課の表記について、同じ課が連続して表記されている。一つにまとめて表記すればもっと見やすくなる。また、再掲の仕方については、44・45ページの図は一度載せてあるので、43ページの下欄の空きスペースに「○ページ図△参照」と表記したらどうか。</p>
意見	<p>委員（男女の地位の平等感について）</p> <p>○意識調査の結果から男性の意識が低いことが感じられる。計画の3ページ図1を見ると、70歳以上の男性は平等であると考えている割合が多いが、70歳以上の女性は平等であると考えている割合は低く、実際の状況とは異なっているようだ。若い世代は改善されているようにも感じるが、若い世代でも男性優位になっている部分もあり、今後の課題なのではないか。男女平等と言いながら、幼児期から教育の現場で、あなたは男、あなたは女という意識が植えつけられて育ち、年齢を重ねるにつれて男性優位の考えになるという社会的な状況が作られているのではないか。</p>
質問	<p>委員（小中学校における男女共同参画について）</p> <p>○町内の小中学校の卒業式の呼名は男子が先、女子が後であるか。他市町では生年月日順や名前順など、男女関係なく行っている学校もあると聞いている。呼名の部分から変えていかなないとなかなか意識を変えるのは難しいのではないか。我々の年代は残念ながらなかなか意識を変えるのは難しいので、若い世代から教育をきちんと行っていき、社会全体の意識を変えていかなければならないと感じる。</p>
回答	<p>委員</p> <p>○今年度の4月に、5つすべての小学校の名簿を男女混合にする方針に揃えた。卒業式の呼名も男女混合になると思われる。少しずつ男女の区別が改善されている。ただ、中学校の現場ではなかなか難しい面があるようで、すぐに変えるのではなく、学校の実情に応じて進めていくことになる。</p>
質問	<p>委員（男女共同参画社会の周知度について）</p> <p>○平成21年に第1次男女共同参画行動計画が作られてから、この10年で大きく変わってきたことは何か。</p> <p>意識調査の結果では、「男女共同参画社会」という言葉を知っているという人もいればあまり知られていない部分もあることが分かる。どのように徹底しなければならないのか。学校・家庭・地域など私たちを取り巻く環境は変わるが、その場面に応じてすべて同じ考え方をしているのかどうか。学校ではこう、家庭ではこう、地域ではこうと場面ごとに分けているかどうか。</p>
回答	<p>事務局</p> <p>○男女共同参画という言葉を知っているかについては、10年前に比べると周知度は非常に上がっていると思われる。実際に行動が伴っているかに関しては、意識調査の結果のとおり残念な部分もあると感じている。若い世代では、家庭の中で男性も参画していくという教育があり、行動も伴ってきているのが調査結果から感じられる。</p>

質問	<p>委員（男女の地位の平等感について）</p> <p>○行動計画の素案の3ページの図1において、他の年代に比べて50代だけ様子が異なっている。50代はどのような環境で育ったのか分析はされているか。</p>
回答	<p>事務局</p> <p>○50代の分析に関しては、まだ詳細までは分かっていない。</p>
質問	<p>委員（町民意識調査の回答について）</p> <p>○日本人は本音と建て前がある国民性。外に出た時と家での考え方にずれがあり、その場に応じた考え方をしている。心の中では男女平等という認識をしていますが、アンケートを書くときに違う意見を持つということがないだろうか。</p>
回答	<p>事務局</p> <p>○町民意識調査の2ページに、各場面での男女平等についての現在の状況の結果が載っている。家庭の中と職場の中では若干ずれが見受けられる。学校教育の現場では、平等であると感じている人が一番多いことが分かる。学校の中では男女平等を非常に意識して取り組んでいただいている。その中で育った子どもたちは自ずと男女平等が身について成長していく。現在取り組んでいることが徐々に浸透して、行動が伴っていく。これからどんどん浸透していくことが予測される。</p>
意見	<p>委員（町が取り組む具体的施策について）</p> <p>○行政として取り組む具体的な施策が挙げられているが、この具体的な施策がもう少し分かりやすいとよい。6年間の中で、最初の年度に何に取り組むかが分からず、全体的な目標となっているので、いつの間にか目標が達成されていくということになる。せっかく調査をし、課題を挙げているので、具体的な施策に生かせるといいのでは。6年を2年ごとに分けるなどしたらどうか。</p>
意見	<p>委員（町と地域や県、国との連携等について）</p> <p>○町の課題を解決する際に、町だけで取り組むのではなく、他の地域や県、国との連携が大切である。制度的な問題と慣習的な問題がある。男女共同社会の実現に向けて取り組む時に、どこの機関と連携するのかその関連性が具体的に分かるとよいのでは。</p> <p>フレックスタイムに取り組んでいるのは全国で1,947社と極めて少ない。県内で取り組む企業を見つけるのもかなり難しく、何とか加賀地区に2社ほど見つけられた。採用の規定などにはフレックスタイムの詳細については記されていない。フレックスタイムを進めていくには町だけでは解決できない。企業、商工会などとタイアップしていくことなども計画に盛り込めるといいのでは。</p>
意見	<p>委員（性差をなくす取り組みについて）</p> <p>○最近問題となっているのが、LGBTQである。性差をなくしていこうという動きがいろいろなところで出ている。性差をなくすという考えは大事であり、6年間の計画は長いので、計画中のどこかに少し取り入れていった方がよいのでは。兵庫県内のある市では、男女共同参画課を性差をなくすための課に変えて設けたところもあるそうだ。今後いろんなところで普及してくるだろう。宝達志水町だけ遅れているということにならないよう考慮してもらいたい。</p>

意見	<p>委員（調査結果のフィードバックについて）</p> <p>○町民意識調査の膨大な資料がきちんと数値化され、最新の町の人たちの考え方が計画に生かされている。この結果を審議会や議会だけに公表するのではなく、広く町民にフィードバックしていくことが必要なのでは。周知や啓蒙が町の役割である。調査結果と自分たちの家庭とを比較できるだけでもずいぶん違ってくるのではないか。商工会、家庭、地域、人権擁護委員の会議などの会合の場などで、調査結果の一部だけでも話題にしてもらうことが大切である。</p> <p>計画の5ページの図3から、固定観念の現状が厳しいことが読み取れる。半数以上が「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成しないと言いながらも、家庭における役割を見ると女性の役割が多いことが分かる。調査には出ていないが、コロナ禍の社会では、女性から企業で解雇されていることが非常に多く、女性の自殺も多いことが報道されていた。意識を変えていくPRが必要だと感じた。男女協力してという思いはあるが、実際はなかなか進んでいないのが調査結果から読み取れる。学校では、並び方や卒業式の呼名について長い間取り組んでおり、今年度からやっと全小学校統一できた。しかし、中学校ではまだ解決していない。高校は進んでいる。学校では先生方の取り組みで少しずつ進んでいるが、家庭内や職場、地域では進んでいないことが分かる。</p> <p>○職場の状況を考えると、なかなかこれまでの業務や職種においてすぐに切り替えるのは難しい部分が多くあるが、会議などで調査結果を共有することで、みんなが意識を持って男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいくことが大事だと思う。調査結果の量が多いので、学校用、商工会用などともっと分かりやすくまとめて推進していけばよいのではないか。当社では、かなり昔から女性の幹部職員の話が出ており、人材育成に取り組んできた。ぜひとも調査結果を分野別にまとめたものを公表していただきたい。</p>
意見	<p>委員（男女共同参画社会について）</p> <p>○男性と女性是对立するのではなく、お互いに助け合う存在であるべき。男は仕事、女は家庭という考え方は、対立した存在であることが前提になっている。男女共同参画を進めて行く上で、男や女の区別をやめ、性差があってはいけないということを学校教育で伝えている。男女の差の意識は、男は仕事、女は家庭という考え方が制度的ではなく慣習的に過去から引きずっているのが原因ではないか。地域の中では性差が出てこない。女性の区長が町内にいないことも計画の中では触れられているが、それを変えていく時には、何らかの行動を起こさないといけない。例えば、〇〇町から女性の区長が出たから、△△からも女性の区長を出そうという動きを町の中で起こさないと変わっていかない。理想は男性と女性が半々ずつ。男女の意識がなくなるような選び方が世の中で出てくるのが理想的である。実際に意見を聞かないと分からないが、おそらく90%以上の方が区長は男性でないとダメだという意見を持っているのではないか。男性と女性是对立する存在ではないという理想を最初に掲げて、男女共同参画を考えていく必要がある。</p> <p>○これから結婚して世帯を持つ人たちは嫌でも共働きをしなければならぬ社会情勢である。家庭の中でもお互いに割り振ってやろうという意識がないとこれからの時代に家庭は持てない。男性が、「あなたは女性だから家庭の仕事もしなさい」と言えば、「勝手にしなさい」と、男性の方が家庭から追い出されてしまうようになっていこう。男女共同参画の出発点を家庭内とし、それが社会に広がっていくという考え方にもっていかないとうまくいかないのではないか。</p>

	<p>昔働いていた職場では女性が6割だった。女性には、「いつもありがとうございます」と感謝の気持ちを持って参加している。女性の力の強さも分かるし、それをどううまく発揮してやっていけるのかをもっと考えていかなければならない。</p>
質問	<p>委員（小中学校での男女共同参画について） ○小中学校では男性・女性がほとんど同じ立場のようだが、どうか。</p>
回答	<p>委員 ○ここ10数年見てきた中で、だんだんと女子生徒の方がいろんな面で役を引き受けることが増えてきた。男子生徒は遠慮することもある。町の青少年国際交流派遣事業でも、参加するのはほとんど女子生徒である。女子生徒のしっかりした姿を見ると、男子生徒もどんどん参加してほしいと感じる。応援団長は昔は男子生徒ばかりだったが、今は女子生徒もどんどんなっている。女子生徒の方がパワーがある。</p>
意見	<p>委員（保護者の教育方針について） ○おもしろいと感じるのは、素案の22ページの図15において、子どもの親たちの教育方針は子どもの思いと違っていることである。女子に期待するのは、1番目は思いやりがある子、2番目は心配りができる子、3番目に活発で行動力がある子、4番目には家事能力がある子となっている。男子に期待するのは、1番目は思いやりがある子、2番目は責任感の強い子、3番目に活発で行動力がある子、4番目に心配りができる子となっている。大人の育て方の意識がまだやはり男性にはこうなってほしい、女性にはこうなってほしいという従来の考え方が受け継がれている。</p>
意見	<p>委員（家庭における男女共同参画について） ○私の家庭では、食事を作るのは妻、片付けるのは私と分担してずっとやっている。お金は妻がずっと管理している。こうした役割分担をしている家庭が多いと思う。ところが、大人の社会では男女の差の意識がなかなか変わっていないところがあるのが現実である。状況は変わってきているが意識が変わっていない。男女の意識を対立から助けあうことへと変えていかないと現状は変わっていかない。学校に長く勤めていたが、女性の管理職が増えていき職場の雰囲気はずいぶんと変わってきた。きめ細やかな教育が行われるようになってきた。これからももっと変わっていくと期待される。 イギリス、ドイツ、アメリカなど他の国における男女共同参画に関する意識についてのデータはあるのか。他国との比較も絡めていく必要があるのではないか。日本だけの問題ではなく、世界的な問題である。男女共同参画が進んでいる国がどこか分かれば、一つの情報として参考ができる。</p>